

加工・業務用野菜 全国優良事例集

＜実需者の事例＞

1. 北海道 北海道エア・ウォーター・アグリ株式会社
2. 北海道 日本罐詰株式会社
3. 北海道 びえいフーズ株式会社
4. 岩手県 株式会社 ハローワーク
5. 埼玉県 株式会社 ピックルスコーポレーション
6. 岐阜県 全国農業協同組合連合会岐阜県本部
7. 奈良県 株式会社 フルックス
8. 広島県 株式会社 サラダクラブ三原工場
9. 宮崎県 有限会社 四位農園
10. 沖縄県 有限会社 グリーンフィールド

【事例に関するお問合せ先】

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1～3. 北海道農政事務所 生産支援課 | ☎011-330-8807 |
| 4. 東北農政局 生産部 園芸特産課 | ☎022-263-1111 (内4540) |
| 5. 関東農政局 生産部 園芸特産課 | ☎048-740-0434 |
| 6. 東海農政局 生産部 園芸特産課 | ☎052-223-4624 |
| 7. 近畿農政局 生産部 園芸特産課 | ☎075-414-9023 |
| 8. 中国四国農政局 生産部 園芸特産課 | ☎086-224-9413 |
| 9. 九州農政局 生産部 園芸特産課 | ☎096-300-6254 |
| 10. 沖縄総合事務局 農林水産部 生産振興課 | ☎098-866-1653 |

【その他のお問合せ先】

農林水産省 農産局 園芸作物課	☎03-3501-4096
-----------------	---------------

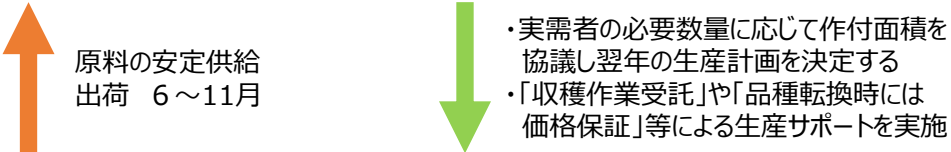
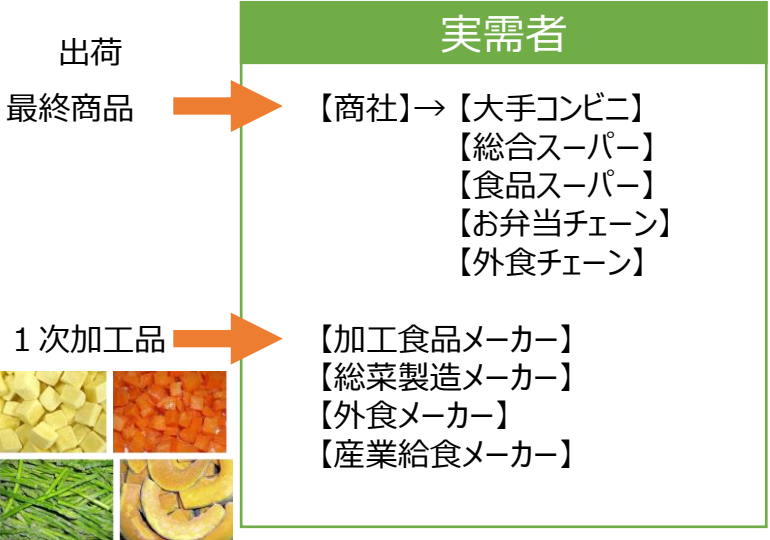
- 有限会社富一 トミチ食品として1985年創立以来、青果用、業務用野菜に取り組んでいる。
- 農産事業、加工事業、物流調達事業に分かれ、冷凍食品や缶詰・レトルト製品等の加工事業の売上げは60億円程度。
- 北海道内の生産者中心に、生産者組合を設立し、実需者との生産調整を図り、産地を維持して原料を確保している。
- 今後グループ全体で北海道における農業食品事業の拡大を見込んでいる。

北海道エア・ウォーター・アグリ株式会社

- ・農産事業部、加工事業部、物流調達事業部からなる。
- ・主要加工施設
旭川工場 冷凍（南瓜、大根おろし）生産ライン
江別工場 冷凍野菜ダイスカット生産ライン
十勝更別工場 冷凍食品、レトルト食品生産ライン
十勝札内工場 冷凍南瓜生産ライン
- ・年間取扱数量（加工用のみ）
かぼちゃ：9千トン、だいこん：6千トン、
ながいも：1千トン、ばれいしょ：1千トン、
コーン：5千トン



サポート事業部門を通じて契約生産者との密接な関係構築し産地の形成、維持に取り組んでいる。



生産・供給

- ・かぼちゃ 道内 420ha 54市町村の契約
- ・だいこん 道内 75ha 24市町村の契約
- ・ながいも 道内 18ha 9市町村の契約
- ・ばれいしょ 道内 970ha 26市町村の契約
- ・コーン 道内 400ha 6市町村の契約



品目ごとに生産組合を設立し、対等な協議・交渉が行える体制を整備。

弊社の特徴

- ・種や肥料、農薬等の手配から収穫作業まで自社及びグループ会社で対応可能
- ・調達、保管、加工、物流、販売と一貫して自社及びグループ会社で完結可能な体制

目標と課題

- ・青果と加工品で連携した販売（共通ブランド化など）

- 昭和23年創業。昭和57年より現芽室工場、平成11年より十勝工場にて冷凍野菜の生産を開始。
- 十勝産の野菜を一般小売用（小袋タイプ）や加工・業務用（箱詰・レトルトタイプ）として製造販売している。
- 十勝管内の生産者を中心に原料協議会を設立し、原料の安定供給、安定した品位、安定した受け入れ価格および生産者の安定した経営への関与を実践している。
- 十勝産野菜の市場拡大を目指した価値向上に取り組んでいる。



- 1935年創業。1962年美瑛町産冷凍スイートコーンの製造開始以後、野菜の冷凍加工事業に取り組んでいる。
- 美瑛町産の野菜を主体に、ダイスカット商品を中心とした1次加工品から一般小売商品を製造、販売している。
- JAびえいと原料調達体制のもと、実需者・生産者と品質管理も含め連携を図りながら原料を確保している。実需者と生産者間の相互の現場交流や研修会を実施し密接な関係を構築し、産地の形成・維持に取り組んでいる。
- 町や生産者とのつながりを大切にしながら地元の重要な産業拠点となるよう目指している。

びえいフーズ株式会社

- ・事業内容
冷凍加工食品の製造販売
 - ・主要加工施設
第1工場
馬鈴薯・人参前処理工程ライン
いんげん・南瓜・大豆・アスパラ生産ライン
第2工場
ハッシュドポテト・成型ポテトライン
新工場
馬鈴薯・人参の冷凍ダイスカット、ホールコーン生産ライン
 - ・年間取扱数量
ばれいしょ、にんじん、コーン、いんげん、かぼちゃ、
大豆、アスパラガス、調理品
生産量 約7,000t
- 

原料の安定供給
収穫 5～10月

- ・実需者の必要数量に応じて作付面積を協議し翌年の生産計画を決定する
- ・実需者、生産者を交えての生産調整品質管理等の会議による情報共有

生産・供給

主に JAびえい より原料調達
・ばれいしょ、にんじん、コーン、いんげん、かぼちゃ、アスパラガス 約10,000 t の契約

出荷
1次加工品



最終商品

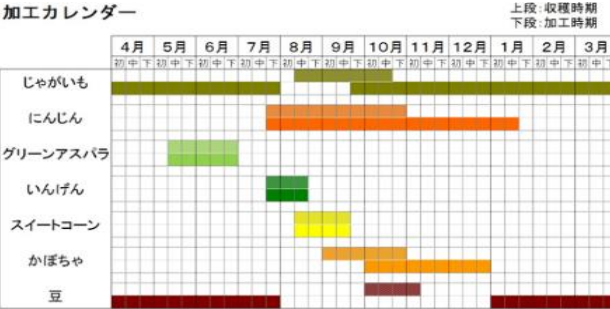


実需者

- 【商社】
→【外食産業】・【給食】・【スーパー】等
- 【加工食品メーカー】
→【スーパー】等

びえいフーズの特徴

- ※安心・安全を考え、生産者の方々の顔が見える原料を使用した製品づくりを大切にしている
- ※様々なルートを通じ、外食産業・給食・生協・スーパーのほかにもレトルトカレーやカップ麺の具材としても使用されており、当社製品は色んな形で日本全国の食卓に届けられている



- カット野菜需要が増えることを見込み、平成元年に岩手県大船渡市に会社を設立し野菜の加工を開始。その後、県内陸部の製造販売拠点として同県奥州市にも工場を整備して稼働していたところ、平成23年の東日本大震災により、大船渡市の本社及び工場が流失して閉鎖したため、奥州市に本社を移転。
- 令和元年度強い農業・担い手づくり総合支援交付金により、農産物加工処理施設を整備。
- 業務内容は、野菜・果物全般卸売、野菜にかかる1次・2次加工品、パックサラダ製造及び販売、惣菜キットの開発等。
- 原料産地の確保方法として、全国各地の取引先の情報を元に産地を訪問して拡大している。
- 今後の構想としては、食の安全とおいしさに加え、環境にやさしく、ムダのない生産形態を作り上げていくことを目標としている。

株式会社ハローワーク

- ・取扱品目
キャベツ、レタス、たまねぎ等
- ・所有施設
農産物加工処理施設（第1～3工場）、
冷蔵倉庫、アグリ施設
- ・年間取扱数量（加工・業務用のみ）
R4年度実績 12,000t



出荷



実需者

A社（食品販売メーカー）【東京都】

他、食品販売メーカー、外食事業者、
食品加工業者等



出荷 通年
（キャベツ、レタス、たまねぎ等）



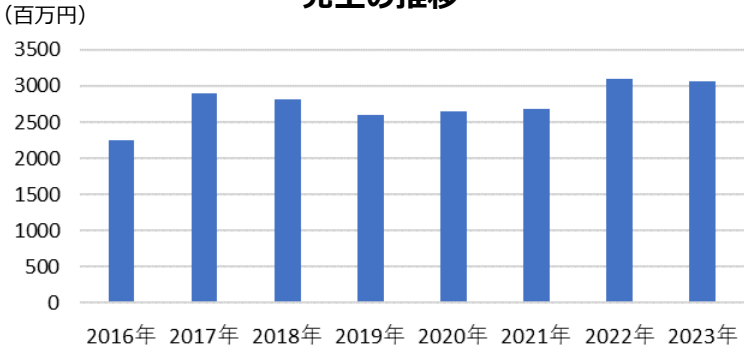
産地リレー出荷、
物流効率化

生産・供給

- | | | |
|--------------|-----------|-------|
| ・JA〇〇（7～1月） | キャベツ 660t | 【岩手県】 |
| ・生産者（7～10月） | キャベツ 100t | 【岩手県】 |
| ・JA△△（12～7月） | キャベツ 370t | 【群馬県】 |
| ・JA□□（6～10月） | レタス 100t | 【岩手県】 |
| ・JA・生産者（通年） | たまねぎ 600t | 【北海道】 |
- 他、青果市場、商社等



売上の推移



強い農業・担い手づくり総合支援交付金（R1）により農産物加工処理施設を整備

- 東海漬物の子会社の浅漬け部門としてスタート、設立は1977年2月
- 事業内容：浅漬け、キムチ、冷総菜、サラダなどの製造、出荷
- 産地の確保方法：季節に応じた産地、生産者、納品業者と長期的に続けられるWINWINの関係性を築く契約実施
- 既存商品に限らず、新しい分野で取り組んでいけるか、模索中（冷凍、輸出、農業など）

(株) ピックルスコーポレーション

会社概要

社名	㈱ピックアップレーション	売上高	410億5,200万円 (23/2・連結)
設立年月	1977年2月	経営利益	16億5,000万円 (23/2・連結)
代表者	代表取締役社長 影山直司	総資産	263億800万円 (23/2・連結)
資本金	3億5,000万円	純資産	174億400万円 (23/2・連結)
本店所在地	埼玉県所沢市東住吉7-8	社員数	304名 (23年9月1日現在・連結)
事業内容	漬漬、キムチ、惣菜の製造・販売、漬物の仕入・販売	株主優待	株主優待制度あり
上場市場	親会社㈱ピックアップホールディングス 東京証券取引所プライム市場		

PICKLES

産地リレーによる周年供給体制の確立

- ・所有施設 全国製造出荷が展開可能な事業所設置
- ・年間取扱数量 原料野菜R4年度実績 5万5千t

出荷

実需者

主に全国の量販店、コンビニ、ドラッグストアへの供給出荷

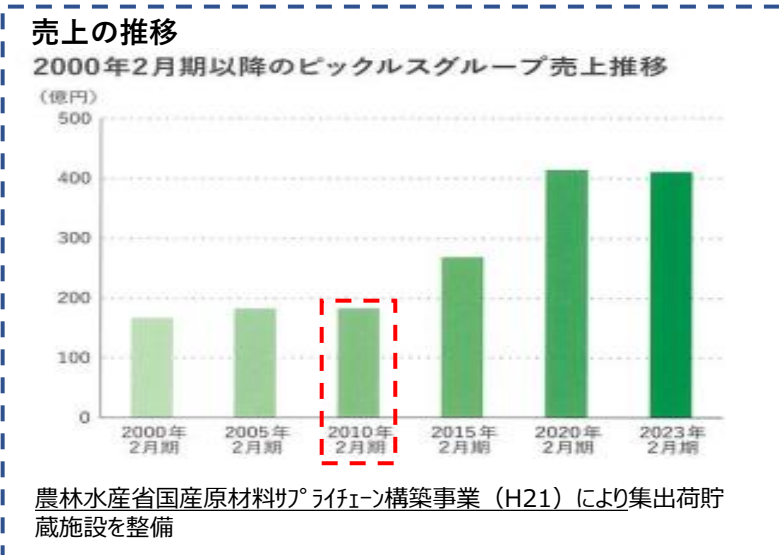
WINWINの関係性を築く契約

出荷 周年 (白菜、大根、胡瓜など)

生産・供給

所沢工場一部参考内容

- ・ 産地業者 (11～6月) はくさい 1,000t 13ha【茨城県】
- ・ JA全農長野 (6～10月) はくさい 700t 10ha【長野県】
- ・ 産地生産者 (11～7月) だいこん 1,000t 15ha【茨城県】
- ・ 商社 (7～11月) だいこん 200t 3ha【青森県】
- ・ 東京中央卸売市場 (12～7月) きゅうり 80t 15ha【千葉県】
- ・ 産地生産者 (5～11月) きゅうり 100t 15ha【茨城県】



- 全農岐阜県本部、三重県本部及び滋賀県本部では、平成27年度より園芸産出額の拡大に向け加工・業務用野菜の生産振興に取り組んでいるが、各産地が小規模であり、安定した供給ができていない。
- 岐阜県本部は、複数の県が連携したリレー出荷等のために、三重県本部及び滋賀県本部と連携して、ロットを拡大した上で気象変動による供給量を調整する加工・業務用野菜の冷蔵貯蔵施設（クロスデポ）を整備。
- 農機レンタル事業（全農岐阜県本部が各単協へ貸し出し、各単協が生産者へレンタル）等により、生産者の支援もしつつ傘下のJAに加工・業務用野菜の生産を促し産地を育成。
- 引き続き、各種栽培試験（品種・在ほ性・株間等）を実施し反収向上による生産の定着・拡大と、全農三重・滋賀県本部と連携し冷蔵施設を活用した周年安定供給体制を目指す。

全国農業協同組合岐阜県本部

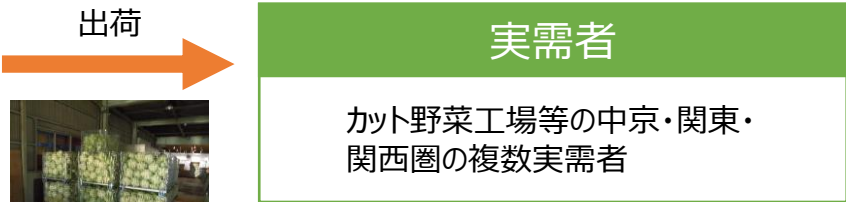
- ・組織概要
全国農業協同組合連合会岐阜県本部
- ・所有施設
集出荷貯蔵施設等
※強い農業づくり総合支援交付金の活用により岐阜県海津市に全農岐阜県本部青果物流通施設（クロスデポ）を整備
- ・年間取扱数量（加工・業務用のみ）
R4年度実績 1,977t
- ・農機のレンタル事業を実施



冷蔵貯蔵による
周年供給体制
の確立



農機レンタル
事業による
野菜移植機
等をレンタル



加工・業務用野菜の生産・供給

【令和4年度】

(単位：t)

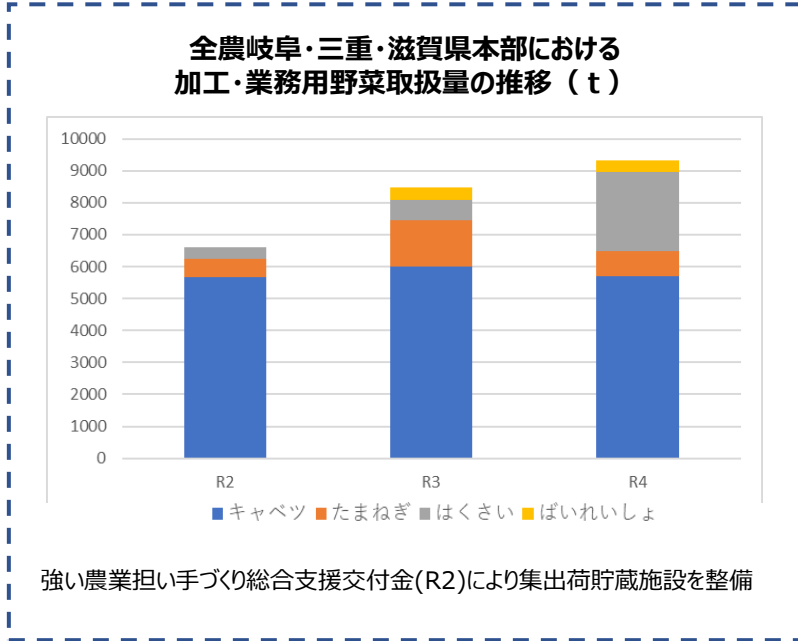
品目	岐阜県	三重県	滋賀県	合計
キャベツ	1,448	1,792	2,459	5,699
たまねぎ	159	28	610	797
はくさい		2,418	39	2,457
ばれいしょ	370			370
合計	1,977	4,238	3,108	9,323

各単協より
鉄コンテナ
による出荷



加工・業務用
野菜の生産





- 1964年に果実仲卸業として創業、1980年代から中食向け事業を開始 * (株)フルックスはフルックスグループの事業会社
- 西日本～東海エリアの量販店、外食企業を中心に「内食、中食、外食」様々な顧客ニーズに対応するカット野菜を製造
- 実需者からの原料の国産切替えに対応するため、全国の産地と連携し、安定供給に向けた取組を展開
- 歩留りの向上や端材の用途開発にも取り組み、「余すところなく使い切る、売り切る」を最重要テーマにSDGsを推進

株式会社フルックス

- ・事業内容
食品製造業
(カット野菜・ミールキットの加工、製造、販売及び輸出入)
- ・所在地
奈良県大和郡山市
- ・所有施設
カット野菜工場、低温流通センター
- ・製造量
20 t /日の野菜を加工し、
40,000パック/日を製造、
800アイテム/月



出荷



実需者

- | | |
|--------------|-------|
| A社（量販店） | 【大阪府】 |
| B社（量販店） | 【滋賀県】 |
| C社（食品製造メーカー） | 【大阪府】 |
| D社（惣菜メーカー） | 【岐阜県】 |

等 全国 100 社と取引

契約栽培
(かんしょ、キャベツ等)

産地ルー
規格・選果の簡素化

生産・供給

- | | | | | |
|--------|----------|------|-------|-------|
| ・ E社 | (周年) | かんしょ | 800 t | 【茨城県】 |
| ・ JA〇〇 | (11月～4月) | キャベツ | 60 t | 【滋賀県】 |
| ・ JA△△ | (7月～10月) | キャベツ | 160 t | 【北海道】 |
| ・ F社 | (6月～11月) | なす | 10 t | 【香川県】 |



フルックスグループの特徴

川上である産地と連携しながら、川中の立ち位置で仲卸事業、生鮮カット事業、ロングライフ事業を展開し、川下となる量販店、外食産業、青果テナントを手掛ける直販事業へと、人と青果物をつなぐ「一気通貫事業」を展開

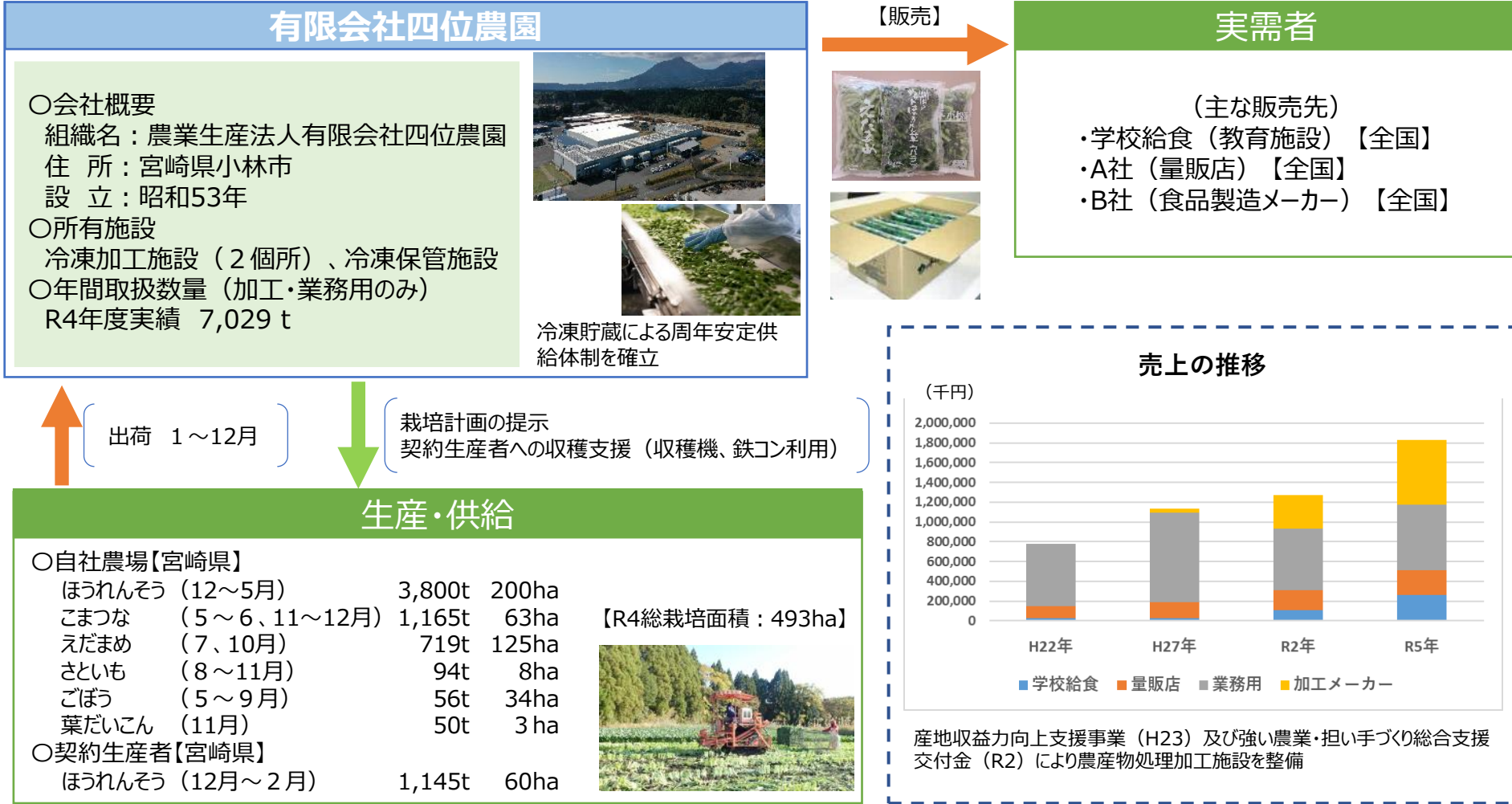
今後の目標と課題

- ・原料野菜の安定供給体制を構築するため、産地での規格・選果を簡素化し、生産者が生産に注力できる環境を整備
- ・全国の産地と連携し、国産野菜への切替えだけではなく、実需者が求める生産者の顔が見える野菜、彩り、季節感等を差別化するための付加価値にも対応

- サラダをいつでも手軽に、無駄なく召し上がっていただきたいという思いから、平成11年にキューピー株式会社と三菱商事株式会社の共同出資により、（株）サラダクラブを設立。三原工場は平成26年10月に新設、同年12月より稼働。
- パッケージサラダの製造販売、マヨネーズドレッシング、ソースその他調味料の販売を行っている。
- キャベツを中心に契約農家から鉄コンテナ、段ボールで搬入。中国四国地方の量販店、宅配業者等へ出荷。野菜原料は、原料評価点制度により、品質維持を図っている。社員に対し、生産現場において収穫実習を行っている。
- 健康志向を背景に野菜の摂取不足を感じている人が多いことから、まずは広島県内のパッケージサラダの未利用者向けに認知度を上げていく取組を行っている。



- 四位農園は、加工・業務用野菜の生産及び問屋業を営んでいたが、実需者から要請を受け、委託加工を開始。その後、安心・安全で責任ある製品を提供したいとの思いから、平成18年に冷凍加工工場を設置し、生産から販売まで一貫した生産管理体制を構築。
- 事業内容：加工・業務用野菜の生産、冷凍野菜の一次加工及び販売
- 産地の確保方法：自社農場を設立し、耕作放棄地などを集積し面積拡大。また、工場近隣の生産者と契約栽培を締結。
- 今後は、冷凍野菜の需要増を踏まえ、海外依存の高いほうれんそう、えだまめなどの生産拡大を図るため、耕作放棄地を利用した更なる面積拡大、契約栽培、一貫した生産管理によるコスト削減を実施し、冷凍野菜の安定供給を図る。



- 市場出荷外野菜を含めて「カット」することで、野菜の付加価値を高め、農家収入安定につなげるとともに、沖縄は年間を通して温暖な気候であるものの、夏場は台風等の影響もあり、野菜を生産することは難しいことから、消費者へ安定的に野菜を提供したいという思いがきっかけとなり、平成17年に会社を設立。カット野菜、カットフルーツ、冷凍野菜を製造している。
- 以前は市場で購入していたが、相場に左右されるため、現在は市場仲卸やJAから産地の紹介を受けたり、県内・県外産地の商社等からの売り込み等で仕入れている。
- 生産者から鉄コンテナでの納品を受けることで物流の効率化を図っており、また、（有）沖縄ファームへは、職員を一定期間派遣するなどの交流を行っている。
- 令和5年度に国の補助事業を活用して水耕栽培施設を導入し、県外産に頼らざるを得ない時期でもより安定的に県産原料の調達ができるよう取り組む予定。

農業法人 有限会社グリーンフィールド

・会社概要

所在地：沖縄県那覇市

設立：平成17年8月

事業内容：農産物の生産、加工、販売

認証：FSSC22000

従業員数：154名

・所有施設

カット工場、高温スチーム、急速冷凍機器

・年間取扱数量（加工・業務用のみ）

R4年度実績 約2,150t



出荷



実需者

A社（小売店）【沖縄県】
B社（外食事業者）【東京都】
C社（小売店）【沖縄県】
D社（小売店）【沖縄県】

・・・ほか小売・外食等約50社

生産・供給

・（有）沖縄ファーム（11～4月）
レタス 180t 6ha 【沖縄県】

・ E社（6～11月）キャベツ 360t 【群馬県・鹿児島県】

・ F社（通年）たまねぎ 180t 【北海道】

※E社およびF社は卸業者



